

CSR報告書 2022



Corporate Social Responsibility Report
2022.4-2023.3

株式会社クリエイティブ・コンサルタントは、地域のみなさまとのパートナーシップを通して、地域の活性化に寄与し、持続可能な社会の実現に向けて、社員一丸となって取り組んでいます。

会社概要

商号	株式会社クリエイティブ・コンサルタント
所在地	【本社】 札幌市中央区北1条東2丁目5番地3 塚本ビル北1館2階 【東京支店】 東京都新宿区市谷台町4番2号 大鷹ビル5階
設立	1990年12月1日
資本金	2,000万円
代表者	代表取締役 斉藤 雅之
従業員数	37名（2022年4月1日時点）
認証取得	ISO27001：情報セキュリティマネジメントシステム 認証番号：IS658697 労働者派遣事業 許可番号：派01-300691

編集方針

株式会社クリエイティブ・コンサルタントでは、ステークホルダーの皆様へ、私たちのCSR活動をお伝えするために、『CSR報告書』を発行しています。

本報告書では、クリエイティブ・コンサルタントのCSRの考え方に加え、私たちが試行錯誤しながら取り組む様々な活動をご紹介します。

尚、クリエイティブ・コンサルタントのWebサイトでは、会社概要やサービス、採用情報などをご紹介しますので、あわせてご覧ください。

Webサイト <https://www.hokkaido-ima.co.jp/>

報告対象範囲 株式会社クリエイティブ・コンサルタント

報告対象期間 2022年4月～2023年3月

発行 2023年3月

お問い合わせ先 株式会社クリエイティブ・コンサルタント
経営戦略室
e-mail:press@hokkaido-ima.co.jp

Contents

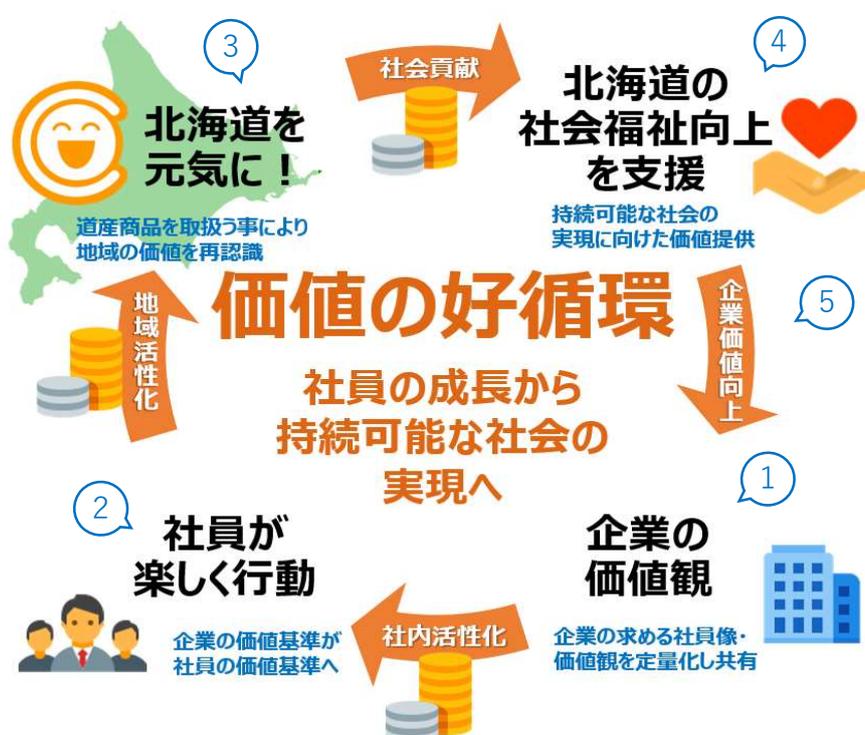
CSR方針	4
CSR活動	
1. 企業の価値観	6
2. 社員が楽しく行動	7
3. 北海道を元気に！	9
4. 持続可能な社会へ	10
5. 企業価値の向上	11
さいごに	11

『社員主導のCSR活動』

株式会社クリエイティブ・コンサルタントでは、社員一人ひとりが起点となって、社内および地域の活性化に寄与し、持続可能な社会の実現に向けて、社員一丸となって取り組んでいます。

◆取り組みの概要

以下の「5つの価値」が循環する仕組みを提供することで、「社員主導のCSR活動」を推進しています。



1. 企業の価値観

私たちクリエイティブ・コンサルタントが価値とみなす基準を明確化し、定期的に社員に共有しています。

2. 社員が楽しく行動

共有した価値基準に基づき、社員が楽しみながら自律的な行動（企画立案、社会貢献、情報発信など）を起こすことに対し、コインを付与する仕組み「ComComCoin」を展開しています。

3. 北海道を元気に！

コインは、社員間の交流で利用したり、社内コンビニにて北海道由来の厳選された商品（道産品、道内企業、安全や環境に配慮、無添加）などを購入したり、社員が北海道の魅力を知る機会を提供しています。



「ComComCoin」はブロックチェーンを活用したアプリケーションです。アプリケーションについては下記サイトをご覧ください。

<https://www.hokkaido-ima.co.jp/services/#a-comcomcoin>

4. 持続可能な社会へ

社内コンビニなどで利用したコインは、北海道の社会福祉向上と、福祉を中心としたまちづくりを支援している団体に全額寄付します。

社員が社会課題や環境問題を知る機会を提供しています。

5. 企業価値の向上

持続可能な社会をつくるための社員の積極的な取り組み・貢献により、企業価値の向上を目指しています。

上記仕組みによって、様々な活動が生まれました。
定義した「5つの価値」に沿って、私たちの活動をご紹介します。

Go To Next Page!

1. 企業の価値観

私たちクリエイティブ・コンサルタントが価値とみなす基準を明確化し、定期的に社員に共有しています。また、社会課題や環境問題を知る機会として、SDGsの社内教育を実施しています。



毎月実施している「システム部 部会」において、SDGsをテーマにアイデアソンを実施。社員同士でアイデアを出し合い、ディスカッションを通して、社会課題や環境問題を解決する方法を模索しています。

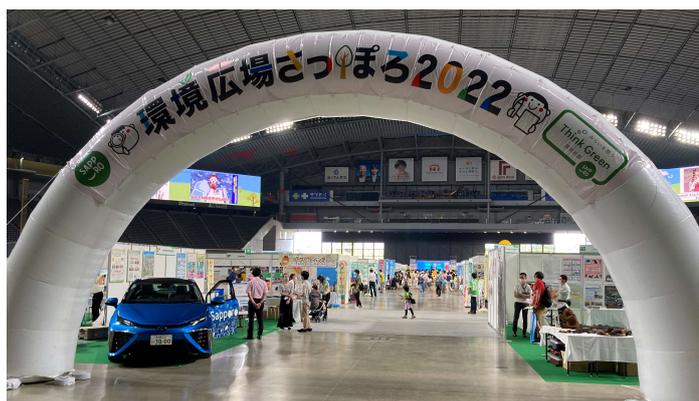
◆テーマ：北海道×SDGs 15 陸の豊ゆたかさも守ろう

北海道は自然豊かで魅力的な土地ですが、その反面、様々な課題もあります。

皆さんが普段感じている事や、事前に情報収集してきた「北海道の陸の自然」について問題・課題を解決、且つビジネスに繋がるソリューションを模索してみましょう。



前述のディスカッション以外でも、社員によるSDGsの取り組みの紹介が行われています。調べていく過程で社内外の方々とのつながりを持ち、新たな取り組みに発展する機会も生まれています。
(マイクロプラスチック問題を知ってもらう取り組みとして、環境広場さっぽろ2022に参加するなど)



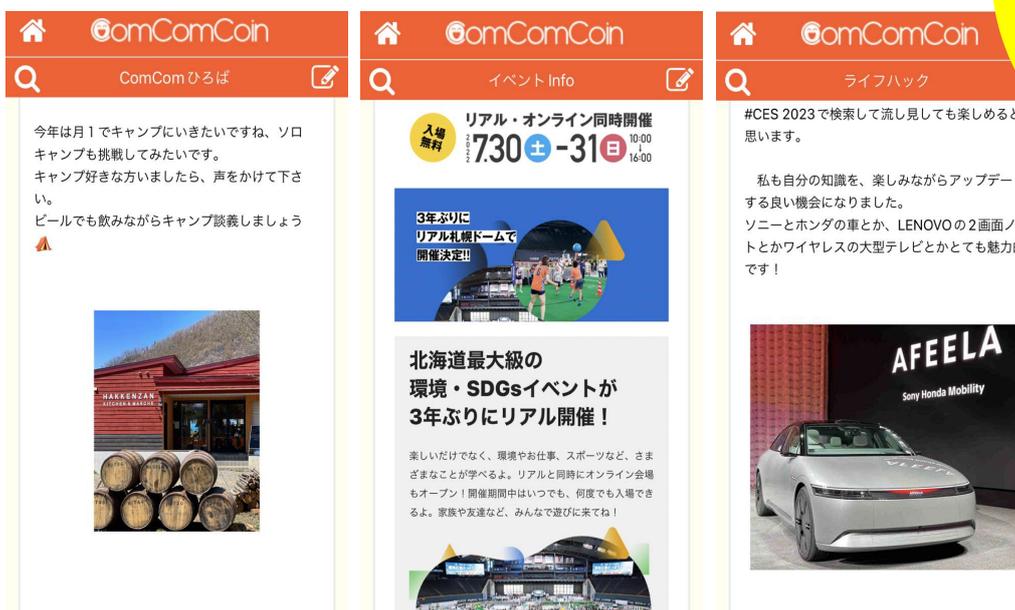
2. 社員が楽しく行動

私たちクリエイティブ・コンサルタントが価値とみなす基準を明確化し、共有した内容に基づき、社員が楽しみながら自発的な行動を起こすことに対し、コインを付与する仕組みを展開しています。

◆記事投稿による情報発信

投稿された記事のうち、割合として多かったのは「北海道の魅力紹介」「地域貢献やSDGsにまつわる企画・取り組み事例の紹介」、そして「IT技術関連」でした。

コロナ禍によって行動制限がかかる中、「私たちにできることは何か」を考え、改めて北海道の魅力、社会課題・環境問題に目が向き、情報発信の割合が増えました。また、簡単に投稿できる仕組みを導入したことで、記事投稿数が増え、社員同士のやり取りが活発になりました。



◆社員同士の交流

コロナ禍によって対面でのコミュニケーションが難しい中ではあったものの、チャット機能や投稿記事へのレス機能を活用して、社員間で情報交換し、気持ちを伝え合う機会が増えました（レス数は前年度に比べ倍増しています）。



◆イベント企画

社員が「地域のために私たちにできること」を考え、企画・主催したイベントを紹介します。

■地域貢献／環境保全の取り組み



今年度も銭函海水浴場で「ビーチクリーン」を実施しました。

今年度は「未来s（みらいず）」さんと協力しての開催で、私たちクリエイティブ・コンサルタントだけでなく、他企業や地元の方々と一緒に取り組みました。



私たちの活動は今年で3年目となりますが、例年に比べるとゴミの量は少ないように感じました。これについて地元の方にお話を伺ったところ「様々な企業や団体が海の清掃活動をしている」そして「地元の方々が日々ゴミ拾いをしている」とのことから、地域の方々の継続的な取り組みがゴミの量を抑えることにつながっているのだと思いました。

一方で「それでもゴミを目にしない日はない」「特に休日や祝日の後はゴミの量が多い」とのことから、地元の方の努力やビーチクリーンのような活動がなかったらと思うと・・・とても考えさせられました。

捨てられてしまったゴミを回収することはもちろん、ゴミを出さない工夫や適切に処分することの重要性を改めて感じました。

■地域貢献／地域活性化



3年ぶりに開催された北海道マラソンの給水ボランティアに参加しました。

私たちは30km地点の新川通り沿いで水やスポーツドリンクを並べながら、選手達の熱い走りに拍手でエールを送りました。



給水ボランティアには初めて参加しましたが、たくさんの関係者やボランティアの方々によって、大会が運営されていることを実感しました。微力ながらその一翼を仲間と一緒に楽しく担えたことを嬉しく思います。

3. 北海道を元気に！

付与されたコインは、社内コンビニで使うことができます。社内コンビニでは、北海道由来の厳選された商品（道産品、道内企業、安全や環境に配慮、無添加）を購入することができ、社員が北海道の魅力を知る機会を提供しています。



社内コンビニでは、商品を購入することに加えて、「社員がおすすめの商品」を配置することも可能で、社員自らが魅力をプレゼンし、楽しみながら道産品、道内企業を応援する活動が行われています。

今年度は新型コロナウイルスの影響で行動が制限される中ではありましたが、北海道の魅力ある品が新たに9点、紹介されました。

社員紹介
厳選商品数
9点

北海道を元気にするための活動も行われました。地域活性化の取り組み、次世代リーダー育成支援など。活動は対面に限らず、オンラインも積極活用し、地域活性化に貢献しています。

frogs 未来s みらいず
Ezo

北海道を元気に
にする活動
12回



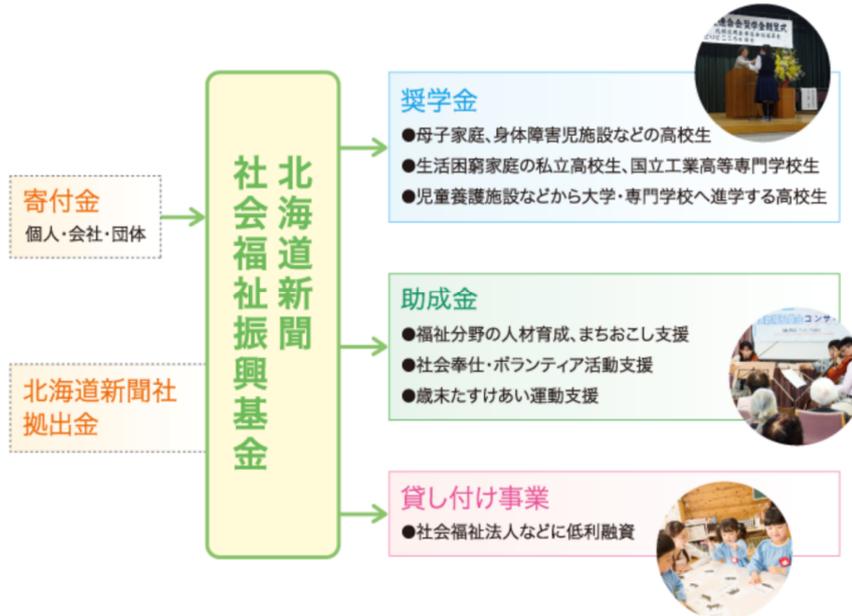
砂川青年会議所「デジタルトランスフォーメーション×業部心」事業。5月11日に「未来のカタチ創出例会」を活性化プラザで開催し、その中で地域デジタル通貨や砂川情報発信アプリなどの講演会が行われましたが、その実施補（実際にデジタル地域通貨の体験、砂川情報発信アプリ）と子どもたちの職業体験（栗刺野さん、美谷野さん、お花屋さん、番水作り体験、医療介護体験）、最新ARスポーツ体験のほか物販ブース、キッチンカーイベント、砂川ハイウェイオアシスではドローンパーク等親子で楽しめる事業です。12時に到着しましたが会場は親子連れで満員状態、私が挨拶するような雰囲気ではありませんでした。水島議長、山田商工会議所副会頭、中村経済部長、安原審議監（DX推進）も出席。砂川青年会議所理事兼理事長、旭輝デジタルで拓く未来のカタチ委員長と西



4. 持続可能な社会へ

社内コンビニなどで利用したコインは、北海道の社会福祉向上と、福祉を中心としたまちづくりを支援している団体「北海道新聞社会福祉振興基金」に全額寄付します。

本取り組みによって、社員が社会課題や環境問題を知る機会を提供しています。



2021年度から独立行政法人 国際協力機構（JICA）が発行するソーシャルボンドへの投資を決定いたしました。

私たちは、社会的課題や環境問題の解決に繋がる事業、SDGs達成に貢献する事業を資金面からサポートし持続可能な社会の形成に寄与すべく、今後も社会的使命・役割を果たしてまいります。



5. 企業価値の向上

私たちは、持続可能な社会をつくるための社員の積極的な取り組み・貢献により、企業価値の向上を目指しています。

私たちの取り組みは、本資料ならびにホームページにて公開しております。

Webサイト <https://www.hokkaido-ima.co.jp/>



CREATIVE
CONSULTANT

さいごに

『社員主導のCSR活動』を促す仕組みを展開し、社内および地域の活性化から持続可能な社会につなげる取り組みをスタートさせてから3年が経過。コロナ禍の中で何が出来るか試行錯誤し、テレワーク活用、仕組みの改善などを通して、活動を継続してまいりました。

行動が制限される中ではありましたが、前年度に比べて記事投稿数やレス数が伸び、社員同士の交流が活発になされていることが見える化できました。

また、地域の方々や企業、自治体と協力して、様々な企画を立案・実行し、地域活性化に寄与する機会に恵まれ、今後益々ICTが重要になると実感する1年となりました。

北海道のIT企業として、引き続き地域の活性化に貢献し、北海道から持続可能な社会実現にアプローチしてまいります。

私たちは持続可能な社会を実現するため、日々、新しい価値を創造してまいります。